

CSR 2020 REPORT

【株式会社姫路環境開発 CSRレポート】



適用範囲：本社・本社工場/中島工場/木くずリサイクルセンター

2021年3月発行



より良い未来のためにできること

私たちHIMEKANグループは、産業廃棄物処理の事業活動を通じて、持続可能な社会を実現するべく、社員一人一人が価値観を共有すること、そしてステークホルダーの皆様の信頼を獲得することを目指しています。

そのためには当グループが果たすべき役割や社会的責任・課題を明確化した上で、ステークホルダーの皆様にお伝えしていくことがなによりも大切だと考えています。

皆様にお伝えする場として、当グループでは昨年度から「株式会社姫路環境開発CSRレポート」を作成しています。

本レポートは言わば皆様と当グループをつなぐ架け橋となっています。

皆様と連携して持続可能な社会の実現に貢献していくため、当グループの活動についてご理解いただき、より深い信頼関係を築きながらCSR活動を推進してまいります。

HIMEJIKANKYO CSR REPORT 2020

【株式会社姫路環境開発 CSRレポート】

- 02 目次
- 03 代表挨拶／スローガン／SDGs
- 04 経営理念／環境方針／組織図
- 05 沿革
- 07 業務内容／設備
- 08 4つの主力事業／リサイクルフロー
- 09 解体事業／エコレンガ製造
- 10 ネットワーク／関連企業
- 11 社員とお客様の笑顔のために
コロナウイルス感染症対策
- 12 安全に対する取り組み
- 13 BCP(事業継続計画)の策定
- 15 デジタル化とコミュニケーション
社内ツール
- 16 電子化・ペーパーレス化
- 17 未来に向けた環境づくり
環境学習
- 18 海のごみ調査隊／ボトルキャップ回収活動／
花とレンガのエコフェスタ
- 19 地域と心のふれあい
フードドライブ活動
- 20 広域清掃／ひめかんエコファーム
- 21 企業情報



TOP MESSAGE

コロナを超えて 変化の時代に「志」をもって挑戦する！

株式会社姫路環境開発 代表取締役社長 梅崎 晃平



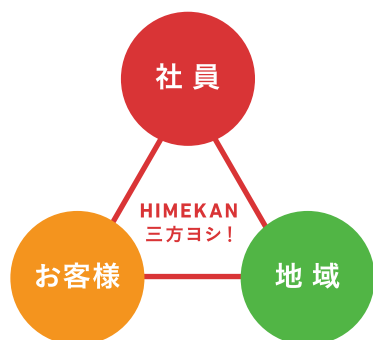
新型コロナウイルス感染症への対応

この度は、CSRレポート2020をご覧いただき誠にありがとうございます。
また、平素は当社の取り組みにおいてご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。
はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。新型コロナウイルス感染症が与えた影響により、私たちの日常生活や経済活動は一変しました。2020年を迎えて間もなくこのような事態に陥るとは誰もが想像できなかったことだと思います。しかし、現実を受け入れて対応していくよりほか道はなく、前向き

に捉え「励まし合いの精神」で乗り切ろうと事業の継続を決断いたしました。緊急事態宣言が発令された時、災害対策本部で取りまとめたおいた感染症対策の指針を事前に作成していたこともあり、全社員にすばやく周知することができました。その間約2か月、社員の努力により乗り切ることができました。現在に至るまで感染者を出すことなく事業が継続できているのも、社員一人一人が真剣に感染防止対策に取り組んで頂いたおかげと感謝の念しかございません。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が一日でも早く終息することを願い、引き続き気を緩めず感染症対策に取り組んで参ります。

SLOGAN

HIMEKAN三方ヨシ！



社員ヨシ！お客様ヨシ！地域ヨシ！

当社の2020年は「HIMEKAN三方ヨシ！」でスタートいたしました。「社員ヨシ！」社員が生き生きと働いていること！「お客様ヨシ！」お客様に満足して頂けること！「地域ヨシ！」地域の方々に必要とされること！この3つのヨシを念頭に仕事に従事いたしました。「HIMEKAN三方ヨシ！」を達成するための具体的な行動目標とは、全社員で一言コメントを100%記入し、より良い会社を築くことです。この目標を掲げることで社員の意識改革につながり、記入率はアップしました。コメント内容も以前よりしっかりと伝わるものとなり、改善点や問題点に対しスピーディーに対策できるようになりました。さらに社員間のコミュニケーションも良い方向に動き始めました。まだまだ100点とは行きませんが、皆さんに満足して頂けるよう日々積み重ねて参ります。

SDGs

SDGsへの取り組み



コロナ禍での新しい取り組み

2019年から本格的に取り組み始めたSDGsですが、コロナ禍により改めてSDGsの大切さを実感できました。しかし、現実はその簡単ではありませんでした。コロナ禍の影響で活動が思うようにできず、コロナ禍がすこし収まった2020年後半に感染対策を行いながら何とか活動を再開できました。
そんな中で新しい取り組みが生まれました。「海のごみ調査隊」という学生たちと一緒に漁船に乗って実際に漁をしながら海底のごみを調査するといった体験型の活動です。みんな真剣で特に担当していただいている先生の思いが強かったことが印象的でした。この活動を通してお互いの理解を深める良い機会にもなりました。「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて2030年のゴールを共に目指します。



地球環境へ限らない挑戦！



経営理念

経営理念

安心・安全・適正な総合リサイクルセンターを目指し、社員全員が参加し、自らが学習し、価値観の共有化ができる組織。限りない資源を生み出す企業として、時代に合った顧客のニーズに対応するためのシステム。人材育成が企業を育て、社員が満足して仕事のできるシステム。廃棄物を通じて、社会に必要とされる企業を作る。

社訓

- 安全** 安全第一 些事を怠るな
- 正直** 自分に正直に生きよ
- 誠実** 他人に誠実に応えよ
- 謙虚** 何事にも謙虚に振る舞え

環境方針

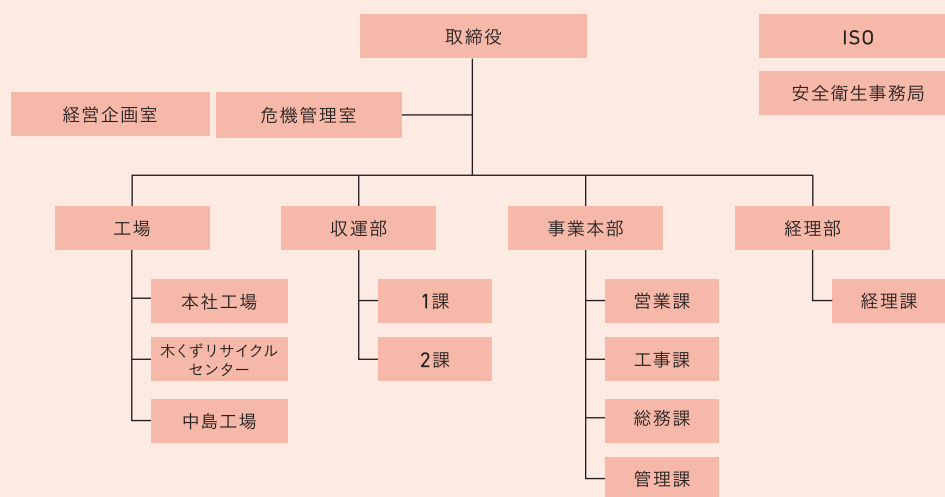
理念

株式会社姫路環境開発は、環境保全を経営の最重要課題の一つとして、経営トップを筆頭に全従業員一丸となって地球環境を守る活動を展開していきます。

方針

株式会社姫路環境開発は、「地球環境へ限らない挑戦！」をスローガンに、産業廃棄物処理業務を通し環境負荷を低減し、美しい地球を次の世代に引き継ぎます。又、瀬戸内の地にふさわしく環境に優しい企業を目指していきます。

組織図



今回のCSRレポート2020におきまして私たち社員が1年間活動してきた思いを形にしたものとなります。最後までご覧に頂ければ幸いかと存じます。これからもHIMEKANグループ社員一同力を合わせ誠心誠意取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



HISTORY

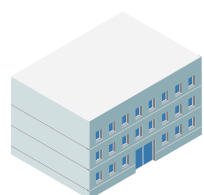
沿革

1988



●会社創立

4名でスタート。地域の産廃業者としての地位確立を目指し、産業廃棄物収集運搬業の許可(兵庫県・姫路市・神戸市)を取得しました。お客様の信用を得られるよう要望に応えていく中で生まれた言葉が「断らない」。これは今でも会社のモットーになっています。



2000

●ISO14001認定取得

環境マネジメントシステムに適合していると判断され、12月1日付で認証されました。適用範囲一本社、本社工場、木くずリサイクルセンター、中島工場(2021年3月時点)



2003

●資本金3,000万に増資

●第二工場を木くずリサイクルセンターとして稼働



処理能力
160 t/日

1994-1999

1994

●第二工場完成

人員や重機・車両が増え、業務拡大が進みました。さらに、産業廃棄物収集運搬業(積替保管)、産業廃棄物処分業(中間処理)の許可を取得し、廃棄物再生処分業者(兵庫県)に登録されました。



1995

●阪神淡路大震災発生

震災で発生した災害廃棄物は約2,000万tにものぼり、産廃業者として当社からも数名の部隊を編成し、被災地神戸での復興作業に当たりました。

1999

●有限会社から株式会社に組織を変更 本社および本社工場移転

移転に際し、搬出・搬入経路の導線を簡略化、安全管理向上のため作業現場の可視化など労働環境の改善・整備を行いました。また、がれき処理プラントを新設することでコンクリートの再資源化を促進できるようになりました。



2004-2005

●新社屋・本社工場竣工、稼働を開始

循環型社会の形成を目指し、またゼロエMISSIONの達成のため新たな社屋・工場と共に新しいスタートを切りました。



2005

●広域清掃活動開始



2000-2005

2006-2009

2006

●エコレンガ製造事業開始

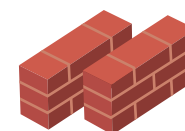
原料の約80%を廃棄物や副産物などの未利用資源でまかなっているエコレンガは、循環型社会を見据えた製品で、今後の普及が期待される事業となっています。

2007

●がれき処理プラント変更

処理能力
779.2 t/日

●花とレンガのエコフェスタ開催



2008

●まちかど100Mクリーンアクション表彰

2005年から継続していた広域清掃の功績が認められ、姫路市主催の『環境と美化のつどい』にて表彰されました。美しい清潔なまちづくりに今後も貢献していきます。



2009

●河金組M&A

●ボトルキャップ回収活動開始



●ひめかんエコファームにて芋掘りを実施



2010

●プラスチック・マテリアル・センター稼働

プラスチックの回収・選別を行いペール品にすることで、マテリアルリサイクルが可能となり、温室効果ガスの削減に貢献しました。本センターが稼働したことにより、リサイクル事業の強化につながりました。

2011

●東日本大震災発生

被災地へ生活用品類などの支援物資を送ったほか、現地へ赴き炊き出しなどの支援活動を実施し、被災者の方々へエールを送りました。

●産業廃棄物収集運搬業で優良産廃処理業者に認定

通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者として、兵庫県・姫路市から認定を受けました。2013年1月には産業廃棄物処理業でも優良認定されました。現在では31の許可で優良認定を取得しています。

●播磨企画M&A

2016

●西部興産M&A

●姫路城季節の花の寄せ植え鉢を寄贈

●環境大臣賞受賞

産業廃棄物処理業を通して、長年にわたり循環型社会の形成に大きく貢献したと評価され、「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰(産業廃棄物関係事業功労)」を受賞しました。



2017

●スギサワテックM&A

2018

●エコ・マテリアルM&A

2019

●フードドライブ活動開始



2010-2019

OUR BUSINESS

業務内容

お客様の業種やさまざまな状況に合わせ、
最適なお提案をいたします。

姫路環境開発は、その事業の社会的責任・重要性を認識し、廃棄物を再資源化するべく徹底した選別を行っています。有価物・中間処理による再資源化、埋立による適性処理を行うことで、地球環境にやさしい処分を実施。
地球環境における取り組みでは国際的な動向にも注力してまいります。

FACILITY 設備

国内でも数社しか保有していない破砕処理施設です！
幅広い産業廃棄物処理に対応している国内最強クラスの1軸シュレッダー。



処理能力
123.417^(理論値)t/日
[混合廃棄物]



破砕施設
廃プラスチック類 …… **4.6t/日**
紙くず …… **4.0t/日**



破砕施設
ガラスくず、コンクリートくず及び
陶磁器くず、がれき類
…… **779.2t/日**



固化施設
460.8t/日



破砕施設
紙くず …… **108t/日**
木くず …… **160t/日**
繊維くず …… **77t/日**



破砕施設
石膏ボード …… **79.0t/日**



破砕施設
蛍光灯 …… **4.8t/日**



減容施設
0.8t/日



混錬・成形施設
57.6t/日

4 MAIN BUSINESS 4つの主力事業

4つの主力事業で、美しい町と環境を守り
循環型社会の実現を目指す

徹底した廃棄物の選別、資源回収を行っております。

廃棄物の適正処理を行い、高い資源回収率を実現。現在、3Iの許可で優良認定を取得！
豊富な車両及び処理施設を有し、多様な状況に対し、安全、かつ迅速に対応します。



リサイクルフロー



受入量 **203,983.03 t /年**

運搬、または直接搬入



再資源化量 **145,847.86 t /年**

処理できない
廃棄物



DEMOLITION BUSINESS 解体事業



産業廃棄物の収集運搬業、中間処理を行う処分業といった当社の得意分野を活かし、解体工事から廃棄物の処理まで一貫して作業をさせていただきます。また、産業廃棄物処理の知識を駆使し、リサイクル推進を念頭に置いた、廃棄物の種類ごとの分別解体をしていきます。安心・安全・適正処理をモットーに、お客様に寄り添った解体工事を目指しています。



アスベスト処理実績

6,000m²

木造住宅解体実績

50/年

(2020年10月現在)

● 主な解体例

ビル、マンション、住宅、アパート
様々な建築物の解体に対応

● 当社の解体工事の特徴

- ・隣地への配慮と気配り
- ・徹底された安全第一主義
- ・解体から収集運搬及び処理まで一貫作業
- ・廃棄物の種類ごとの分別解体



建築物の中にはアスベストを含む有害物質が付着している設備が存在する可能性があります。アスベスト(石綿)は天然に産する繊維状の鉱物で、繊維が極めて細かく飛散しやすい特徴があり、人が吸入してしまうと人体に悪影響を及ぼす可能性もあります。そのため、アスベストを除去する際は通常の解体時に比べ特に注意が必要となり、法に則った適切な処置を行う必要があります。当社では解体工事に合わせてアスベスト除去にも対応しています。アスベスト含有の有無を調査し、作業計画を定め、飛散防止対策を十分とった上で処理しています。

ECO BRICKMAKING エコレンガ製造

エコレンガの製造は、当社唯一の製品部門であり、マテリアルリサイクルにおいて、重要な事業の一つといえます。エコレンガとは砕石・砕土・溶融スラグ・ガラスウール・瓦くずといった廃棄物や副産物を原料としています。本来なら焼いてレンガを製造しますが、無焼成固化技術という、焼かずに高密度化し自然乾燥で固化する技術を用い、レンガの製造を行っています。

無焼成なので本来焼成する時に使用する化石燃料を使用しません。そのため、二酸化炭素の発生を抑え、地球温暖化防止に寄与し、エコロジーでエコノミーな製品となっています。



再資源化比率

80%

- 無焼成製造
- 無廃棄製造
- 排水製造



NETWORK

多分野への対応を可能とするネットワーク

収集運搬車両

ユニック車/19台

3t 4t 5t 6t 8t



コンテナ車/18台

4t 6t 7t 8t



車両数

56台

ダンパー車/1台 4t

ダンプ車/7台 3t 10t

ツカミ車/2台 8t 10t

土砂ダンプ車/9台 10t

収集運搬容器

舟型バッキン

●奥行:2,000mm

●幅:1,500mm

●高さ:1,100mm

●重さ:300kg



中型コンテナ

●奥行:3,600mm

●幅:1,900mm

●高さ:1,000mm

●重さ:1,000kg



大型コンテナ

●奥行:5,900mm

●幅:2,300mm

●高さ:1,800mm

●重さ:3,000kg



分別カート

●奥行:1,070mm

●幅:780mm

●高さ:955mm

●重さ:28kg



GROUP COMPANY 関連企業

グループ各社と連携することにより資源回収率をより高め、また環境にやさしい製品づくりを行っております。





社員とお客様の
笑顔のために



安全に対する取り組み



01 安全衛生委員会開催

月1回委員会を開催し、事故報告があった際の対策を協議・検討、安全衛生パトロールの結果報告・改善提案、リスクアセスメントの確認などを行う。

02 安全衛生パトロール

5S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)が行き届いているかの確認、設備・施設の危険箇所の指摘・改善を行う。

03 年間安全衛生管理計画書の作成

04 ヒヤリ・ハット報告

05 リスクアセスメント

危険箇所を調査し、どれくらい危険なのかを基準に基づいて点数付ける。点数によるレベル分けを行い事前にリスクを見積もった上で危険箇所を改善する。改善後、見積もった点数・レベルが下がったか点検する。

06 安全教育の実施

社員に対し安全教育を実施。教育を受けた社員に自筆で自覚シートを記入してもらうことで内容理解を深める。また、事故が発生してしまった際は事故報告書を作成し、再発防止に努めるため個人に対し安全教育を実施している。

07 安全衛生方針

安全衛生活動は、企業経営の基盤であり、我が社で働く人及び地域社会の安全・健康に及ぼす影響を最小限となるよう企業活動の中で安全衛生管理を徹底し、自負できる職場を目指します。

1. 安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理に努めます。
2. 職場の危険有害要因の明確化と対策の優先度を定めるリスクアセスメントを実施し、“災害ゼロ”の安全で快適な職場づくりを推進します。
3. 過重労働及びメンタルヘルスによる健康障害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、社員の健康確保対策を推進します。
4. 全社員とのコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行していきます。
5. 社員教育を通じて、安全衛生意識の高揚に努めます。
6. 安全衛生活動の実行に当たっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施します。

08 作業計画書の作成

どの重機・車両を誰がどのルートで作業を行うのか書面にまとめる。



コロナウイルス感染症対策

現在もなお、感染拡大をしているコロナウイルス感染症。

当社では、感染症対策として緊急事態宣言が発表された2020年4月から約2ヶ月間、本社事務所の人員をA班、B班の2班に分け、交互に出勤する業務体制を実施しました。万が一感染者が出た場合の対策としてこの体制を実施し、出勤しない日は在宅勤務の形をとりました。

仕事内容の関係上、在宅勤務が難しいドライバーや現場作業員には、朝礼時に密にならないよう時差出勤を行いました。また、事務所内には飛沫を防ぐためにクリアパネルを設置し、アルコール消毒、換気、マスクの徹底などを行いました。

緊急事態宣言の解除後も感染症対策に徹底的に取り組んだ甲斐があり、誰一人として感染者を出すことなく業務を継続できています。この結果に安心するのではなく、今後も徹底した取り組みを継続して参ります。

具体的な対策

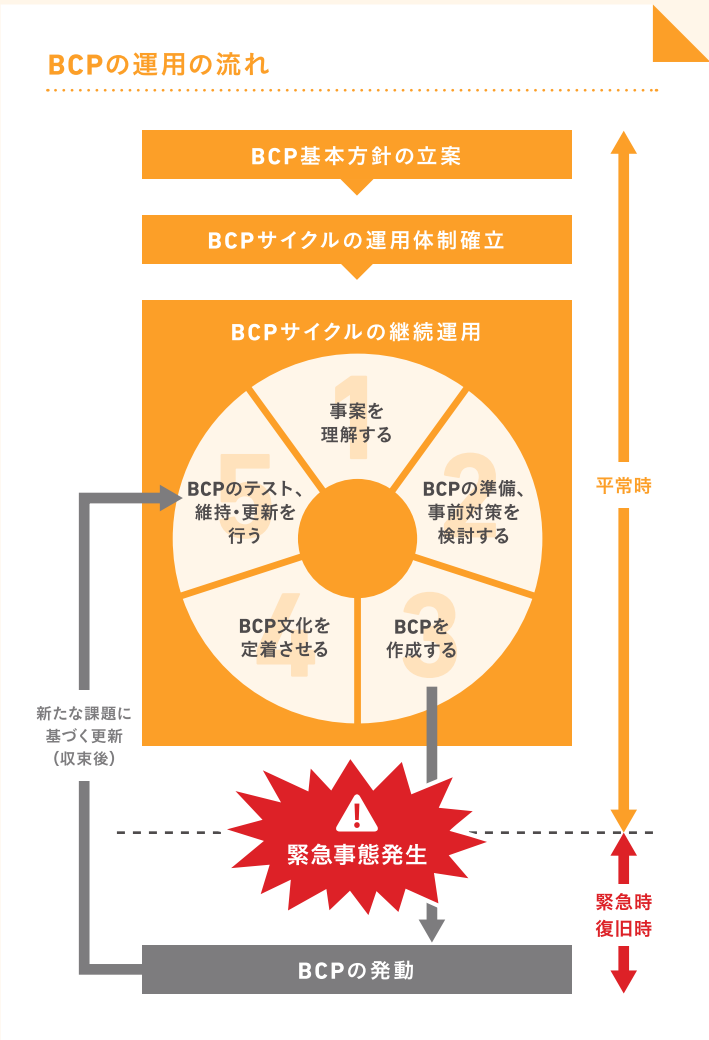
- 次亜塩素酸の噴出
- 換気
- 隣席との間に仕切りを設置
- マスクの徹底
- 来客の一時停止
- 会議のweb化
- 受付窓口にクリアパネルを設置
- 来客者の検温
- トイレを班別で使用
- 毎日の検温チェック
- ライバーと工場勤務の時差出勤
- 体調管理表の記入
- ソーシャルディスタンスの呼びかけ
- アルコール消毒の徹底(社員・来客含む)



BCP（事業継続計画）の策定

BCPとは事業継続計画(Business Continuity Plan)を意味します。自然災害、大災害、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合、企業として事業資産の損害を最小限に抑える必要があります。そのため平常時に行うべき活動や緊急時の事業継続のための手段を取り決めておく計画です。

緊急事態発生時の対応・復旧が遅れると、業績が悪化し経営基盤の弱い中小企業は事業縮小や従業員解雇、最悪の場合、事業を継続できなくなり廃業に追い込まれる恐れがあります。それらを回避するためにBCPを周到に準備しておくことが重要になります。



事業継続力強化計画の認定

この度当社では、中小企業庁より「事業継続力強化計画に係る認定」を令和2年2月12日付で認定いただきました。事業継続強化計画の認定制度とは、防災・減災に対し取り組みを行っている中小企業に対し、その取り組みを取りまとめた事業継続計画を経済産業大臣が認定する制度です。認定を受けた企業は様々な支援を受けることができます。この制度を利用し、より強固なBCP策定を目指します。



COMMENT

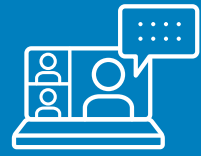
BCPとは、事業継続計画であり、大規模災害時でも事業を継続できる仕組みづくりです。

姫路環境開発さんでは国土強靱化貢献団体のレジリエンス認証に向けて取り組んでおり、防災リ्यूク全員分設置、災害対応訓練、救助救出AEDでの心肺蘇生訓練など定期的を実施し、工場も私と共に安全衛生パトロールの強化を行いPDCAの仕組みが出来上がっております。

また、風水害時に人や車両を避難させる図上訓練を行いBCPに積極的に取り組んでおられます。



株式会社 BCPJAPAN
代表取締役
山口泰信様からのコメント



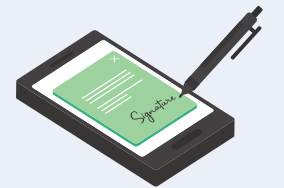
デジタル化と コミュニケーション



2020年度電子契約締結数

189件

(2020年5月導入後～2020年12月まで)



電子化・ペーパーレス化

01 電子契約書

当社が取り扱っている産業廃棄物を適正に処理し事業活動を行っていくにあたり、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)」に定められている通り、委託契約書を締結する必要があります。また、契約終了後も保管が義務づけられています。契約書の管理や締結にかかる時間・コストを削減するため、電子契約サービスを導入しました。

電子契約のメリット

①締結までにかかる時間を大幅短縮

メールでのやり取りになるため、郵送にかかっていた時間を削減できます。また、操作も簡単でメールで送られてきたURLから契約書の内容を確認し、承認ボタンを押すだけの3クリックで完了します。最短3分で締結が可能です。

②セキュリティ面でも安心

原本証明電子帳簿保存法でも認定されているタイムスタンプが締結完了時に発行されるため、改ざんを防止します。

③地球環境の保全に貢献

紙を使用しないのでペーパーレス化が促進されるだけでなく、郵送時に排出されるCO₂の排出量削減にもつながります。

02 電子決裁

新規のお客様に関わらず、既存のお客様から見積書の作成依頼は多いです。営業担当はお客様のご要望に應えるだけでなく、早急な対応が必要となります。お客様のご依頼にスピーディーに対応できるよう、電子印鑑サービスを導入しました。このサービスはいつでもどこからでも押印できるだけでなく文書の回覧がすぐにできるため、社外に居ても書類の確認、回覧がスピーディーに対応できるようになりました。

タブレット端末導入台数

55台

03 タブレット端末の支給

社外で活躍する営業、ドライバー全員にタブレット端末を支給しています。営業において、外出先で資料の確認が出来たり、遠隔操作で会社のパソコンに入っているデータを見たり、その資料・データをそのままお客様にお送りすることもできます。お客様へ訪問する間の隙間時間を書類作成やメール対応などに利用し、作業効率を高めています。在宅勤務の際も営業課はタブレット端末を使用したweb会議を行い、営業間での情報共有を徹底しました。

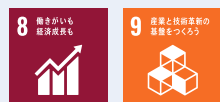
COMMENT

産業廃棄物処理には委託契約が欠かせません。そして契約を証する契約書は紙媒体で作成するのが一般的です。

しかし持続可能な社会を目指す上では、可能な限り紙媒体を使わないよう努めなければなりません。そこで当社では2020年5月より電子契約を導入しました。これまでなら紙で作成されていた契約を電子データとして締結・保管することで、ペーパーレス化に寄与しています。また印刷や郵送、印紙貼付といった諸費用の削減によって、お客様の利便性も向上しております。2020年12月現在で電子契約は189件締結しております。

当社が締結する契約の総数と比べれば、いまだ電子化率は数%という値になります。しかし国際的な情勢を鑑みれば、この数値はもっと高まっていくのではないかと思います。お客様へのご提案を通じてさらに普及できるよう邁進してまいります。

電子契約について
事業本部営業課からの
コメント



LINE WORKS

社内ツール

コロナウイルス感染症での在宅勤務を受け、社員間のコミュニケーション不足の解消や業務促進のために社内ツールとして2020年7月より「LINE WORKS」を導入いたしました。

今まで営業が外出している際の連絡ツールとしてメールを活用していましたが、既読の有無や連絡の遅れ、連絡漏れなどが課題となっていました。LINE WORKSを導入したことにより、既読の有無が一見してわかるようになり、外出時の連絡の遅れや連絡漏れが解消されました。

当社では日々の業務の中でもしくは日常生活で気づいたことや感じたことを「一言コメント」として社員全員が記入しています。部署ごとに管理し、Wordにコメントを記入していましたが、同時に記入できない、パソコンからでないと記入できない為、ドライバーや現場作業員のような専用PCを持たない方々の記入に時間がかかっていました。LINEWORKSを活用することでPC以外の端末からでもアクセスでき、「いつでも」「どこからでも」コメントを記入できるようになりました。そのため、一言コメントの記入率がアップし、離れている部署と



の情報共有がスピーディーに行えるようになりました。新しい社内ツールを社員全員に浸透させるために勉強会を開くなど、ツールを最大限に活用できるようにいろいろな方法を模索し、よりよい職場環境になるよう今後も尽力いたします。





未来に向けた 環境づくり



海のごみ調査隊

近年海洋プラスチックごみが問題視されていますが、漁をする過程でもプラスチックごみが発生しており、出漁の度に回収しています。回収したごみは持ち帰り、適正処理を行っています。最近では、賢明女子学院様との共同企画として、播磨灘の海洋ごみを調査する「海のごみ調査隊」と題して活動しています。月に1度は出漁し、地元の家ではどんなごみが多いのか、回収し調査しています。始まったばかりの活動ですが、環境学習にもつながり海の清掃活動としても有意義なものであるため、今後も継続していきます。



ボトルキャップ回収活動



ボトルキャップ回収活動とは、外部団体や企業様から直接お持ちいただくかボトルキャップ回収の依頼を受けた際は回収に行き、キャップをリサイクル業者に売却したその売却益をワクチン購入資金として寄付しています。この活動は2009年から始まり、11年継続したこともあり現在では姫路を中心に800団体様以上からご協力頂いております。今年もコロナウイルス感染症の感染拡大を受け、ボトルキャップ回収を一時中止しておりました。しかし、中止している間もこの活動に協力して下さる方が多く、活動再開後はすぐに回収のご連絡を頂きました。それだけこの活動が普及し認知されていること、とても意義のある活動であることを再認識いたしました。しかしながら、無償で回収を行っているこの活動は、バックの入替や設置時の合間に運転手が回収活動を行っているため、このまま協賛団体様が増え続けると業務に支障をきたす恐れがあります。そのため、どのように受け入れ態勢を整えるのかという懸念があります。今後も活動を継続していくために対策を講じます。



飾磨西中学校の 生徒からのコメント

ボトルキャップ回収活動のような「人の為になること」をこれからも継続し、ボランティアなどにも力を注いでいきたいと思います！

発見

行動

体験

学び



環境学習

産業廃棄物を取り扱う企業として環境問題は切っても切り離せない重要な事項であり、環境問題に対し、どのように向き合っていくかが課題となっています。持続可能な社会の実現を目指し、姫路環境開発では次代を作る、未来を担う子どもたちに少しでも環境問題を知ってほしい、興味を持ってほしいという思いから地元の小学生の方々に環境学習を行っています。総合的な学習の時間に環境問題、特に「ごみ」について学習されている4年生に加え、今年は「海」について学習されている3年生にも「海洋プラスチックごみ」について環境学習を実施しました。4年生には、近年ごみ問題の中でも問題視されている食品ロスと海洋プラスチックごみに着目した内容で1時間分の講義を行いました。クイズを織り交ぜながら理解を深めていただき、ごみをへらすために環境をよくするために自分たちにできることは何かみんなで一緒に考えました。また、体験学習ではダンボールの積込体験とキャップアートを行いました。ダンボール積込体験は、普段ご家庭からでるごみを回収しているドライバーの仕事を実際に体験してもらうこと、ごみがどのように回収されているかを知ってもらうことを目的として

います。キャップアートは、専用のフレームにペットボトルのキャップをはめていき、キャラクターを完成させます。一度使わなくなったものでも工夫次第で遊び道具にもなる、いろんなものに使える、3RのReuse(リユース)を感じてもらうことを目的としています。



姫路市立妻鹿小学校
4年生の皆さんから
お礼のお手紙を頂きました！



花とレンガのエコフェスタ

当社が製造するエコレンガの普及活動と、日頃からご理解ご協力いただいている地域の方々への感謝の意を込めて、製造工場直卸の特売会「花とレンガのエコフェスタ」を年に2回、開催しています。今年はコロナウイルス感染症の影響で開催は中止になりましたが、開催した際は周辺地域より多数の方々にご来場いただき、毎時盛り上がりを見せています。開催を待ち望む声やエコレンガだけでも購入したいとご連絡いただける方も多かったです。エコレンガのエコロジーな観点だけでなく、独特な風合いがある点も地元住民の方々に親しまれている理由の一つとなっています。



My箸活動



森林伐採に対する環境保護の意識を持ってもらうことを目的とし、全社員に当社オリジナルの「My箸」を配布。社内での食事や外食時も割り箸を使わない活動をしています。

プラスチックスマート



当社は環境省が実施している「プラスチックスマート」キャンペーンにも積極的に取り組んでいます。



地域と心のふれあい



開催実績通算
163回
(2020年12月)

Ⅰ 広域清掃

当社は地域の環境美化への貢献と地域の方々への感謝を込めて、毎月第一月曜日に全社員総出で本社がある地域の清掃活動を行っています。2005年(平成17年)より続けているこの活動は、今年で実施回数を通算160回を超え、美しいまちづくりに努めています。毎回パッカ(3㎡)1.2個分ほどのごみを回収していますが、本社が位置する海沿いは漂着ゴミが多く、捨てられているごみの多さを認識させられます。清掃活動を続けていくことの重要性を社員一同感じており、少しでも安全できれいな地域となるよう今後も継続してまいります。また、より良い美しいまちづくりを目指したこの活動を行うことで、社員の社会や環境への貢献意識、CSR活動への参加意識向上にも寄与していると考えます。



Ⅱ フードドライブ活動

現在の日本において、売れ残りや食べ残し、期限切れ食品のような本来食べられるにもかかわらず廃棄される「食品ロス」が問題となっています。食品ロスが大量に発生している一方で、食べる物がなく貧困生活を強いられている人々も数多く存在しています。当社では、食品ロスを減らすとともに、食品を無駄なく消費して多くの貧困者が安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、「フードバンクはりま」の活動に参画し、余った食品を集める活動を展開しています。社内でもフードドライブ活動を毎月行い、お米や袋麺、お菓子など様々なものを回収、フードバンクはりま様に寄付しています。今年は約39kgの食品を寄付させていただきました。寄付した食品はフードバンクはりま様から福祉施設や児童養護施設、子ども食堂などの食料を必要としている方々へ届けていただいています。この活動を通して、食品ロス問題を地域の方々にも認識していただきたいと考えております。今後は、社内のみならず地域の方々にもご理解ご協力頂き、より多くの方々から集めることを目標とします。

フードドライブ回収実績
39kg
(2020年1月～12月)



姫路環境開発

食品寄贈



フードバンク はりま

食品

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ● 福祉施設・団体 | ● 共同生活ホーム |
| ● 児童支援施設 | ● ホームレス就労生活支援団体 |
| ● 子ども食堂 | ● 老人介護施設 |
| ● 母子緊急生活支援施設
(DVシェルター) | ● 外国人失業支援 |
| ● 身障者通所作業所 | ● 難病デイケアセンター |
| | ● 更生施設 |



Ⅲ ひめかんエコファーム

最近では外で遊ぶ子どもたちが減っており、自然と触れあう機会も多くありません。しかしながら、自然の中に身を置き、自然の恵みを五感で感じる体験は、子ども達の知識や関心として残り、将来自然を大切にしようとする思いにつながると信じています。姫路環境開発では自社で農地を保有しており、社員が交代で管理を行い、サツマイモや落花生などの野菜を栽培しています。収穫の時期には近隣の幼稚園児を招き、さつまいもの収穫体験を実施しています。地元の土地でできる収穫体験は、感動を与え、ものづくりの良さに気づき、自然に親しみや愛着を感じさせるものです。季節の食材について学び、食材の育ちを学ぶ。この収穫体験は子供たちの食育にもつながっています。

ヴィクトリーナ姫路



「姫路から世界へ」

当社は姫路を盛り上げるヴィクトリーナ姫路を応援しています。
ヴィクトリーナ姫路エリアスポンサー(2020年12月現在)

緑化事業～姫路城季節の花の寄せ植え鉢



環境に配慮した社会づくりを目指し、姫路市の世界文化遺産である姫路城に季節のお花を寄贈しています。2016年に全国産業廃棄物連合会青年部協議会の近畿ブロックから始まったこの活動を翌年から当社で引継ぎ、毎年お花の植え替えを行っています。別名白鷺城とも呼ばれている真っ白な姫路城に華を添えています。

事業所一覧

本社工場

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3067-17 TEL079-233-3353 FAX079-233-6262

配車センター

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3059-6 TEL079-233-3131 FAX079-233-3133

工場

木くずリサイクルセンター

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島相生梅2104

エコレンガ工場

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3059-24

大津工場

〒671-1132 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町2丁目89-1

メンテナンスヤード

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3059-23

中島資材センター

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3059-6

工場エリアマップ



グループ関連企業一覧

株式会社環境保全サービス

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3067-17

播磨企画株式会社

〒676-0082 兵庫県高砂市曾根町2466-13

株式会社共生

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3059-23

株式会社西部興産

〒731-1523 広島県山県郡北広島町南方13456-8

株式会社河金組

〒689-2213 鳥取県東伯郡北栄町上種字オバガ谷85-8

有限会社スギサワテック

〒708-0842 岡山県津山市河辺字岡田98-17

有限会社エコ・マテリアル

〒672-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家1113-5

企画・編集

株式会社姫路環境開発

事業本部 総務課 マーケティングチーム

発行年月

2021年3月

お問い合わせ先

株式会社姫路環境開発

事業本部 総務課 マーケティングチーム

〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島字宝来3067-17

Tel:079-233-3353 / Fax:079-233-6262

<https://www.himejikankyo.co.jp/>

CSRレポートに関するアンケート

本レポートに関するアンケートにご協力いただいた方には、毎月抽選で20名様に500円分のギフト券をお渡しいたします。右のQRコードからアクセスしてください。ご協力よろしくお願いいたします。

